

CAMK ANIMALS (熊本市現代美術館収蔵作品より)

作家・作品紹介

赤星宣利 (あかほし・のぶとし 1928-1999)

七面鳥をテーマに精力的に制作した作家。動物園で、自宅で、懇意にしていた人の庭で、絶えず七面鳥と向き合っていたというエピソードが伝わっている。七面鳥は鶴や白鳥に比べるとシンプルとは言い難い鳥で、幾重にも重なり複雑な見え方をする羽の色が、作家の探求心を大いに刺激したようである。

水戸岡鋭治 (みとおか・えいじ 1947-)

JR 九州の駅舎や鉄道車両のデザインで知られるデザイナー。緻密な描写と独特の色遣いが印象的で、決して大きくはないサイズだが、描かれた動物の存在感が画面にみなぎるイラストレーションである。今回展示している作品のいずれも、1991年にその原画が制作された。

松本寛庸 (まつもと・ひろのぶ 1992-)

極めて細かいパーツと豊富な色彩で構成された画面を特徴とする。展示作品は同テーマのヴァリエーションであるが、魚群の粗密が作品ごとに異なっており、それぞれ独特のリズムを有している。魚のボディと尾ひれに異なる色を用いる繊細さには驚かされ、この無数の色の組み合わせにより、より明るくカラフルな世界を立ち上がらせることに成功している。

長尾紀壽 (ながお・のりひさ 1940-)

沖縄の伝統的な染めの技法を用いて制作している作家。展示作品は石垣地方に伝わる、海神「アカマタ・クロマタ」に豊作を祈る秘祭をテーマとしたものである。屏風の特徴を生かして線対称に配されたモチーフ、複雑に重ねられた層、墨や顔料の濃淡など、考え抜かれた諸要素の構成が素晴らしい画面となって結実している。

江島栄次郎 (えじま・えいじろう 1864-1944)

熊本出身の生人形の名匠、松本喜三郎の弟子。明治 31 年には、喜三郎の代表作であり、県の指定重要文化財にも指定されている「谷汲観音像」(浄国寺)の全面的な修復を手掛けた人物である。展示作品は掌に収まるほどの小さな蟹。よく観察された精巧な作りであることはもちろんのこと、小さな生き物の生命の儚さも感じ取ることが出来る。

海老原喜之助 (えびはら・きのすけ 1904-1970)

1951年ごろ海老原は、鹿児島県大口市の宮下紫草という陶工のもとに通い、熱心に陶器の絵付けをしていたという。展示作品のうち2点は、海老原が生涯好んで描いた馬、もう1点には蛸が描かれている。軽快でのびのびとした筆遣いは、横に丸く張った花瓶の形状とも相まって、蛸の大らかでゆっくりとした動きをよく表している。

有田巧（ありた・たくみ 1952ー）

イタリア留学を経て、フレスコ画を中心に制作している作家。本作品のタイトルは、宮沢賢治の童話『狼森と箕森、盗森』にも登場し、岩手県に実在する丘陵「狼森(おいのもり)」に由来している。鋭い眼をした、ただならぬ気配の2匹の狼。その背景にはプロペラ機や鉄塔といった人工物が確認できる。人間の営みと自然との関係が示唆されているようだ。

藤田桃子（ふじた・ももこ 1978ー）

日本画の技法をベースにしなが、砕いた貝や珊瑚などを顔料に用い、オリジナルの新しい日本画にチャレンジしている作家。圧倒的な迫力で鑑賞者に迫るのは、象の鼻や鳥の翼、爬虫類や鳥類の足など、さまざまな生き物の要素が絡み合った異形のものである。大画面に描かれたモチーフもさることながら、マチエールの複雑さも注目に値する。

藤本高廣 ZUBE（ふじもと・たかひろ ズベ 1958ー）

30年に渡る鉄工所での仕事を経て、近年、鉄の廃材をブリコラージュした作品を手掛けている。今回は、思わず笑みがこぼれてしまうユーモラスな生き物の作品を展示した。廃材の特徴を大胆につかみ取り、多様な素材を巧みに組み合わせる発想とテクニックは、長年に渡って鉄材と向き合ってきた作家ならではの、といえよう。

神野大光（じんの・たいこう 1954ー）

彫った文字の部分が白く残る白文印。作家は幼少の頃、家で飼っていた牛の大きさや目の鋭さに恐怖しながらも、しばしば牛を絵に描いていたと回想する。牛に寄せる感情は複雑だったようだ。篆刻という小さな世界にありながら、骨太に彫られた天を向くツノの表現に、牛のもつ力強さを感じる事が出来よう。

吉野辰海（よしの・たつみ 1940ー）

1970年代より今日まで、犬をモチーフにした作品を発表している。当館所蔵の作品は、ねじれた長い首を持つ破格に大きい犬の頭部である。はるか遠くを見ているかのような眼差しの静かさは対照的に、首のねじれにはエネルギーや運動といったものが備えられている。作家が飼っていたジャーマン・ポインターがモデル。

作品リスト

作家名	作品名	制作		技法、材質
		年	サイズ	
赤星宣利	箱と鳥	1986	112.0×145.5 cm	油彩、キャンバス
水戸岡鋭治	ミミズク	2015	72.8×51.5 cm	紙、プリント
水戸岡鋭治	サイ	2015	72.8×51.5 cm	紙、プリント
水戸岡鋭治	ナポレオンフィッシュ	2015	51.5×72.8 cm	紙、プリント
松本寛庸	さかなのオリンピック① 聖火台	2008	27.0×37.8 cm	色鉛筆、水性ペン、画用紙
松本寛庸	さかなのオリンピック②	2008	27.0×37.8 cm	色鉛筆、水性ペン、画用紙
松本寛庸	さかなのオリンピック③	2008	27.0×37.8 cm	色鉛筆、水性ペン、画用紙
長尾紀壽	ジュゴンの棲む島—遠来神を祝ふ	1997	180.0×180.0 cm	和紙・墨・顔料、型染・糊防染・ドローイング・ステンシル
江島栄次郎	蟹	不明	5.3×6.5×2.0 cm	ブロンズ
海老原喜之助	たこ	不明	h. 13.5 cm	陶器 花瓶
海老原喜之助	馬と人	不明	h. 15.8 cm	陶器 杯
海老原喜之助	洗馬	不明	h. 15.2 cm	陶器 花瓶
有田巧	オイノモリ	2006	194.0×259.0 cm	フレスコ
藤田桃子	あちら側から来たもの	2016	182.0×274.0 cm	岩絵具、水干絵具、墨、箔、鉛筆、 膠、砂、貝、珊瑚、他
藤本高廣 (ZUBE)	赤いシッポのドラゴン	2010	38.0×72.0×15.0 cm	鉄切りバサミの部品、金切りバサミ、ランプ、コード
藤本高廣 (ZUBE)	トリ	2012	192.0×80.0×55.0 cm	バイクのタンク、マフラー、やっこ、イヌ釘、ギア、椅子の足
藤本高廣 (ZUBE)	揺らぐトリ	2012	128.0×50.0×27.0 cm	灰かき、農機具の部品、ギア
藤本高廣 (ZUBE)	ハンドル君	2010	φ45.0 cm d. 12.0 cm	ハンドル、カップワイヤー、ブラシ
藤本高廣 (ZUBE)	さなえちゃん	2014	48.0×62.0×33.0 cm	イセキ田植え機さなえの部品
藤本高廣 (ZUBE)	グリーンフクロウ	2014	48.0×28.0×8.5 cm	プーリーカバー、水道管切断機の ハンドル、ギア
神野大光	土牛	1991	33.4×24.4 cm	印泥、紙
吉野辰海	大首	1992	h. 198.0 cm	FRP